



# 再選めざす 日本共産党 そねはじめレポート

2010年 9月23日発行 第28号

そねはじめ事務所  
114-0032  
北区中十条2-11-6  
Tel: 3907-1135  
Fax: 3906-3225

## 笠井亮・田村智子衆参議員と区議団が北社保病院長と懇談 「増築で百ベッド増やし周産期 NICU 等に赤字でも取組む」と意欲

病院内を見学するそねはじめ前都議



笠井亮衆院議員と田村智子参院議員が22日午後、東京北社会保険病院を訪ね、住永病院長、塩津管理者などから現状や今後の展望を聞き、懇談しました。

そねはじめ前都議の進行で、共産党区議団も同席しました。

住永佳久院長は「6年前の開設以来ここでゆいいつの総合病院・24時間受付ける小児救急などで地域医療に貢献できた自負があります。医療水準を守っていけるようお願いしたい」と挨拶。

忙しい中をかけた産婦人科医で管理責任者の塩津英美氏は、北社保病院の特徴として、280床に対し通例の3倍の医師百名以上を擁し、数十人の研修医受け入れや、小児夜間救急を15

人の常勤医が交代勤務で支えていること、外来患者も一日八百人前後で安定した黒字を達成したことを紹介しました。

### ◆臨時国会での公的存続法案成立に期待

さらに今後、現在の中庭に百床分を増築して経営の安定を図りながら、不採算であっても乳幼児の命を守るため周産期医療や集中治療室（NICU）を整備し、3次救急（最高度の救命医療）に取り組みたい意欲を表明しました。

問題は、政府が動揺して再び“病院売却路線”に戻った場合、他の医療法人が乗り出してくる危険があることです。

「年間数千万の赤字でも院内保育所を確立したおかげで女性医師が3割を占める。無医村に医師を派遣し、倒れたらすぐ代役を送れるのはここだけです。別の法人が買いとって今医療の水準を維持できないでしょう。私たちが思い切り地域医療に貢献できるよう応援してほしい」と語りました。

### ◆住民になくてならぬ病院を超党派で守る決意を表明

笠井亮議員は、「一日も早く公的存続が実現するよう超党派で働きかけて取り組みたい」。田村智子議員は「6月国会で廃案になったが、自民党の強硬派に負けずに臨時国会で成立めざす」とそれぞれ決意を表明しました。懇談の後、病院内の産婦人科の分娩室や乳児室などを見学させていただきました。

## 高齢者サポートの要として包括支援センターの抜本的強化を

共産党の代表質問で、地域の高齢者の所在不明や孤独死などを防ぐためのネットワークづくりをとりあげました。

北区では民生委員任せにできない高齢者の見守りやサポートを、シニアクラブ、自治会町会など様々な方がたで担っています。

これら地域の努力と行政との連携の要として、北区が各地域に設置している地域包括支援センターの増員や行政の日常的協力を思い切って強化するよう提案しました。

### 王子地域のユニークな取り組み

王子3丁目の「生活支援ネットワーク」では、電球交換やゴミ出しなど、介護や医療の“すき間”をうめる多様なサポートを“実費以外は無償”を原則にグループで取り組み、喜ばれています。共産党の支部・後援会員もふくめ思想信条を超えて協力し合うユニークな活動です。

王子地域の皆さんと懇談するそねはじめ前都議と八百川孝区議。

